

上にメロがおいてあった。その涙をこぼしたメロには、「あなたに幸福と夢をつぶすことはできません。さようなら。」と書いてあった。

一応Y.A.2000の星間区方面行きのスペース・バスにのりこんだことはわかたが、そのあとにのシャローナの消息は全くわからなかつた。

三週間後、ジェームスは地球行きパンナムM.A.R.O.2便に乗った。船内では、まだワイプ航法が未発達のため、この船は最新の重力しゃたん装置をつんでいます。大きな星の近くを飛ぶことによつて、その星の重力でしだいに加速していき、光速の九十九・九七二%まで達します。船内時間で一ヶ月で地球に着きます。その間に地球では四五年ほど経過しているでしょう。

一ヶ月後、地球についてジェームスは、自分の住む居住区に役所に行き、身分証明書などを提出した。

いさなカレジスタンス的思想をもちはじめた。そしてこの仕事についているうちに、コンピュータをすこしくるわせば今の政府をつぶすことも可能ではないかと考えるはじめた。しかしそれは、きりいつて無理なことであつた。完ペキにプログラムミングされたコンピュータをいかに彼が高度の技術をもつているからといつて……

こうしてまたまたペーシのつこうで三年か過ぎ、彼は同じ職場にいる女性を愛しはじめた。彼女はすごい美人であつたが、それよりもこの時代の人間に不足しているやさしさとおたかさをかぬもなえていた。彼はそんなところが好きになつてしまつた。シヤローナに對して自分の目の前にあつた幸福にすかりついたことに罪悪感を感じたが、彼女と結婚をし、幸福な生活をおくつていくと、たんだんその罪悪感もうすらいでいつた。コンピュータ管理室に行つて、コンピュータの指示を記録していた。するとコンピュータがいつにもくうらべてかなり命令

をえいとジェームス・スチュワートさんです。一五二七街の四〇二二の二です。これがキーです。それとこのパンフをお読み下さい。事務室はまるでホテルのフロントにいる人の様にこう言つた。

地球での生活は思つた以上に快楽そのものであつた。そして彼の念願であつた海へ行つてみた。古い海をじつとながめたいとスチュワートは、心にほつきりな感じがあつた。こうして彼は一ヶ月間海にかよひつづけたが、どうやらじつはいやされたようであつた。しかし何かわりきれないものを感じた。

彼は学生時代工学系科目を今ヨイスしていたし、また適性検査などで地球政府が統治するのに必要なコンピュータのかなりをまかされた。この時代たしかに政府というのはいくらもつけられていたが、わが現在の様に税金をムダづかいするふぬけばかりで、一切コンピュータにまかせきりであつた。ジェームスはシャローナの件などで、

謂でおかしなことをしゃべり始めた。

「大統領クレイ・レガゾニーを至急地球から永く返却しろ!!」

ジェームスは自分の耳をうたがつた。そしてリビート・ポタンをおそつたことが、おすまでもなく何度くり返し同じことを言つた。

地球政府には大統領とその下に上中下の三つの議院がもたらされて、この中に一度上議院から大統領が選出された。それは現在の自民党から総理を選出するのと同じで、どこかの派がの長を選出するのと同じでなく、上議員全員が大統領にならなければならない。人の上に立ちたいという願望はいつの時代にあつてもすべからぬ人類がもつことなので、上議員あるいは中・下議員全員が大統領に當りたいという感情を常々もつていた。だからこのコンピュータの指示は、上議院においてもまた中・下議院においても満場一致でかけつされた。このかけつに不服をもつたクレイ・レガゾニーは地球国憲法に反したというに死刑となつた。しかしこのうら目にあつたのはクレイ

レザゾニーだけではなかった。次の大統領
 ショームス・ハントもまた次のマリオ
 アンドレ・テイもそうだった。こうなっ
 てくると上議員も不安におののき、原因
 究明にのりだした。そしてジエムスに
 原因調査を命じた。その結果地球外の星
 から判らぬのエネルギー波をとばし、
 コンピューターをあやつっているものがあ
 るとわかった。さらにくわしい調査で
 そのエネルギー波はYA2001星帯区
 のエリヤX032・Y215・XW69
 にある星からであることがわかった。こ
 うしてジエムス・スチューワートとその
 妻リンダ・スチューワート以下5名の調査
 隊がその星に飛べんされた。

彼らがついた惑星は、小惑星にもか
 らぬたようなち。ぼけな星であった。しか
 し不思議と表面の重力は地球と同じであ
 った。
 「おいリンダ。生命反応はどうだ。」
 「それが全くないのよ。」
 「エーそれじゃこの星には生物が全
 くいないということになるじゃないか。」
 ちようどジエムスとリンダが、宇宙

船をおりてこんな会話をしてい
 った。二人のヘルメット内のイヤ・ホ
 ンからこんな声が聞こえてきた。
 「あなたたち二人は、そこから
 マイルほど先の岩場に行きなさい。」
 二人はそのことばにいてこうすること
 なく、岩場に行くことと岩場がグリーンと降下
 しはじめた。
 「どうやらこの地下が住家のようだ。
 「どんばやつらなんぞしよう。生命反
 応がないなんて。まさか他の星で
 トロイルしてたりして。」
 などと二人が話しているとき、エレベ
 ーターは止まった。そしてまた声が聞こえ
 た。
 「おりてヘルメットをはずし、はい
 てきなさい。」
 ヘルメットをはずすと目の前のドア
 しきものがあいた。
 二人がそのドアのむこうに行ってみ
 と、そこには一人の機械化人間がいた。
 「長い旅でつかれたでしょう。ま
 本でものんびりくつろいで下さい。
 は二人はすすめられたお茶に一応不信感
 はあったが、のんだ。それはなんもい

なくうまいコービーであった。そしてそ
 の味はジエムスに青春時代の甘い生活
 を思い出させた。そしてはつと気がつい
 た。
 「この味は。ま、まさかシヤ
 ナ!!」

「うれしいわジエム。味をおぼえてい
 てくれたのネ。」
 「わすれるわけじゃないか。あ
 シヤナナこんな姿になつて。」
 「あなたか地球に行つてまたこの惑星
 に来るまでに私と五〇キも差がでてしま
 った。でもこんな姿になつても地球
 政府をつぶしたかっただのよ。」
 「なぜ、なぜあの時オレをおいで行
 てしまつたんだ!!」
 「あなたの幸福をつぶすことなんが私
 はできなかつたのよ。」
 「でも、でも君が全てだったんだ!!君
 といっしょにいるところとくらべたら今の
 幸福なんか砂の器と同じだ!!」
 「お願いもう帰つてちょうだい。あな
 たにだけはこんな妻の自分を見られたく
 なかつた。」
 「ああわかつた。でも協力してほしか

「たらいつでもいつてくれ。」
 「ええ、たぶん。」
 「シエムスとリンダは再びエレベ
 ーターに乗り地上へ出た。そして宇宙船に向
 かって歩いていく時だった。リンダはジ
 エムスの背中にリーサー・ガンをつき
 つけた。
 「おいリンダ、じやーだんはよせよ。
 あぶないじゃないか!!」
 「ふふふ、あなたにも死んでもらうわ
 ね。」
 「えっ!! いったいなにがどうしたとい
 うんだ。」
 「ジエムス又はリンダが本気であること
 に気づきかたりどりようした。
 「実をいうとねすべてわかつていたの
 よ。あなたが潜在的に反政府思想をも
 っていることやこの星にひそんでいるシヤ
 ナナとあなたとの関係などをね。あなた
 は私と結婚してくれただけで、私はHAR
 800という精こらな機械化人間なのよ
 更だね。」
 「そ、そんなバカな!!」
 「本当いうとねいっしょに来たあとの
 人も機械化人間なのよ。それとね、あ

え?! 私の曲が第三位ですって?!
今日 マネー ジャー トから第一位だと聞
いたばかりなのに……
”では島田ユキのピクニックをお送りし
ます”

と私の聞いたことのない曲が流れた。
なかなかい曲だね。
”このピクニックは前曲と同様 島田ユ
キさんの作詞 作曲 編曲で 只今 ヒ
ット于 ジャー ト急上昇中です。来週はおそ
らく一位になるでしょう”
私は何かなんだかわからなくなっ
ました。ピクニックなんて曲 聞いたこ
ともないのに……
”あつと聞いていようちに このラジ
オは何ヶ月か後のことを放送していること
かわかってきた。
でも どうして?!”

そんなことはユキにとってどうでもい
いことだった。彼女は彼女の不思議なラ
ジオで聞いた自分の曲をそのまま自作の
ものとして発表し 大物スターにのし上
がっていた。
そんなある日 彼女がいつものように

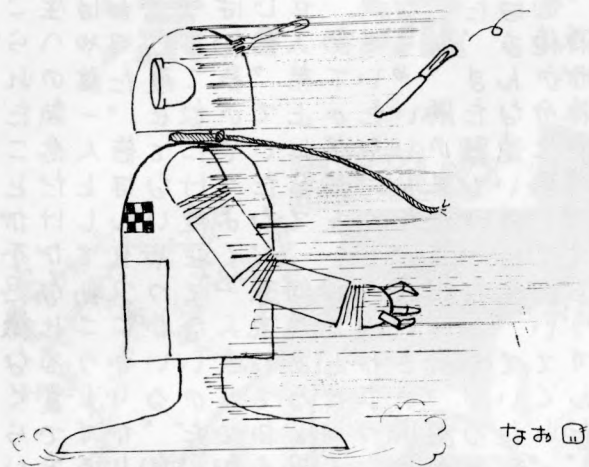
”被害者のマンションです”
とマネー ジャー トが言っている
”Y.K.K.リニーは もう彼女だけに賭け
てきたんですよ もうおしまいだ”
ユキちゃんどうして死んだんだよ”
”マ マネー ジャー !! 私はここに
いじゃない! ちゃんとこうして……”
ユキが話していることは全くマネー ジ
ャー や警察官たちの耳にはきこえてない
ようだった。まるでユキが遠く世界に
いるかのよう……
”遠く世界……そうだね 私は異次元の世
界にいるんだね。そういえば 昔 何か
の本で読んだことかある 四次元の世界
は立体的な世界で 三次元の人達からは
その世界の人の姿はみえないし 声もき
けないとか書いてあったわ。というこ
とは壁なんかも通り抜けたりして……
”と 思うと ユキの手はするつと壁を
通り抜けてしまった。やはり私はおそら
く四次元の世界にいるんだわ……
誰も私の存在に気づいてくれない?!
私はひとりぼっちになっただけ……”

ラジオを聞いていると お昼のニュース
が流れてきた。
”昨夜 青山二丁目の交差点でタクシー
と大型トラックが追突し タクシーに乗
っていた歌手の島田ユキさんが死亡しま
した。島田さんは今までにない音楽の天
才といわれ 騒がれただけに大せいの人が
その死を惜しんで……”
え!! 私……私か死ぬなんて?! このニュ
ースは明日のニュースだから 私か死ぬ
としたら 今夜だね!”
”どうしよう……”

”そうだね 今夜はどこのも出かせずに
いっ部屋にいれば絶対死ぬはずないわ。
せいでユキは じつと部屋に閉じこも
っていた。まだ八時十五分だね 外へ出
ていよう!”
えーと まだ八時十五分だね 外へ出
られないと思うとよけいに出かけたくな
るわ! 雑誌を読んだり料理を作ったり
して 彼女はなんとか時間をつぶした。
十二時五十分になつたわ。もうこれ
私は死ななかつたのね! ここにちゃんと
生きていよう!”
”と 彼女の時外から鍵を叩かれて 警
察やマネー ジャー たちかどかどか入っ

ユキは半狂乱になつて 街へとびだしてい
った。街はクリスマス前近で割と人出
加あつたがユキにぶつかるとは誰ひとり
いなかつた。とこまでいって とうとう
いつても何も起こらなかつた。まるで宇
宙をひとりさまよつていようように……
結局 ユキは自分のマンションへ帰る
しかなかつた。帰つてみると マネー ジ
ャー やY.K.K.リニーの人達かユキの部屋
の家具を動かしている。
”島田ユキにはずいぶんお金をかけたか
らねー。これら全部売りはらつても
元加とれないくらいだよ。ハッハッ”
”うそよ。うそだね。ただ働きのせいで
好きだから 別にそれでもよかつたけれ
ど……”
”ひい! 私には以前 自分
にヤコペコしていたマネー ジャー の変り
ように腹が立たつた。しかし 前世 友達
だと信じていた山田百恵や桜木淳子たち
のこころを考えると もう人間不信に陥
てしまふのだつた。
”おいおい 彼のへんてこな箱はなんだ
よ”
”えー ラジオみたいだぜ”

しなからまるで獲物をつかまえるみた
 いるにじりじりと寄ってきた。俺は組んで
 いる腕が急に柔かくなっていることを感
 じとっていた。



④ 事件のたがひを馬を田生

左半のたがひ

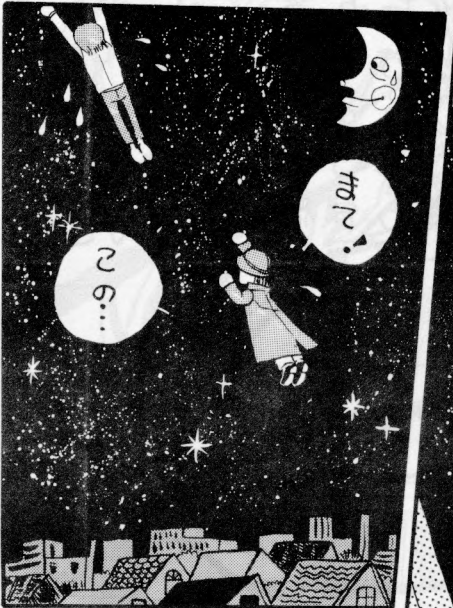
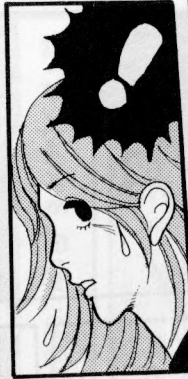
事件のたがひ

事の起り。大学に入つて一ヶ月、
 だり。暮か身にしみる頃、俗言
 とり。病である。左手は、俗言
 う。五日。病である。左手は、俗言
 飲。二杯。空けた。結果は、明
 ト。通。赤にした。男は泣き
 顔。真赤にした。男は泣き
 なる。真赤にした。男は泣き
 て。いる。警察を呼んだ。駆け
 え。と。証言。北証言。北証言。
 官。俺にも。前情。持ちは。よ
 っ。俺にも。前情。持ちは。よ
 よ。俺にも。前情。持ちは。よ
 涙。ぐ。だり。おせ。話。な。け。て。み。ま。せ。ん。
 さ。涙。ぐ。だり。おせ。話。な。け。て。み。ま。せ。ん。

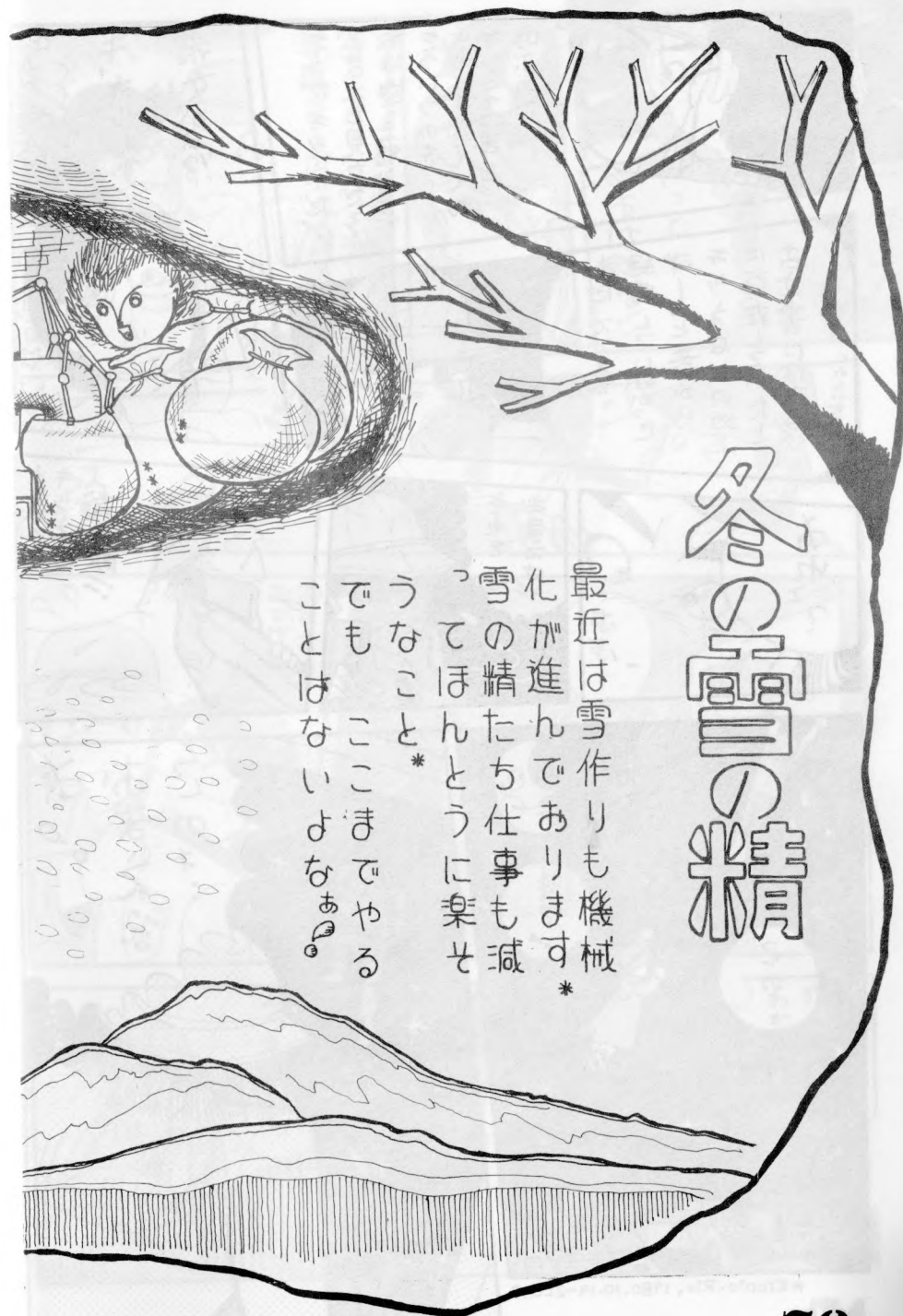
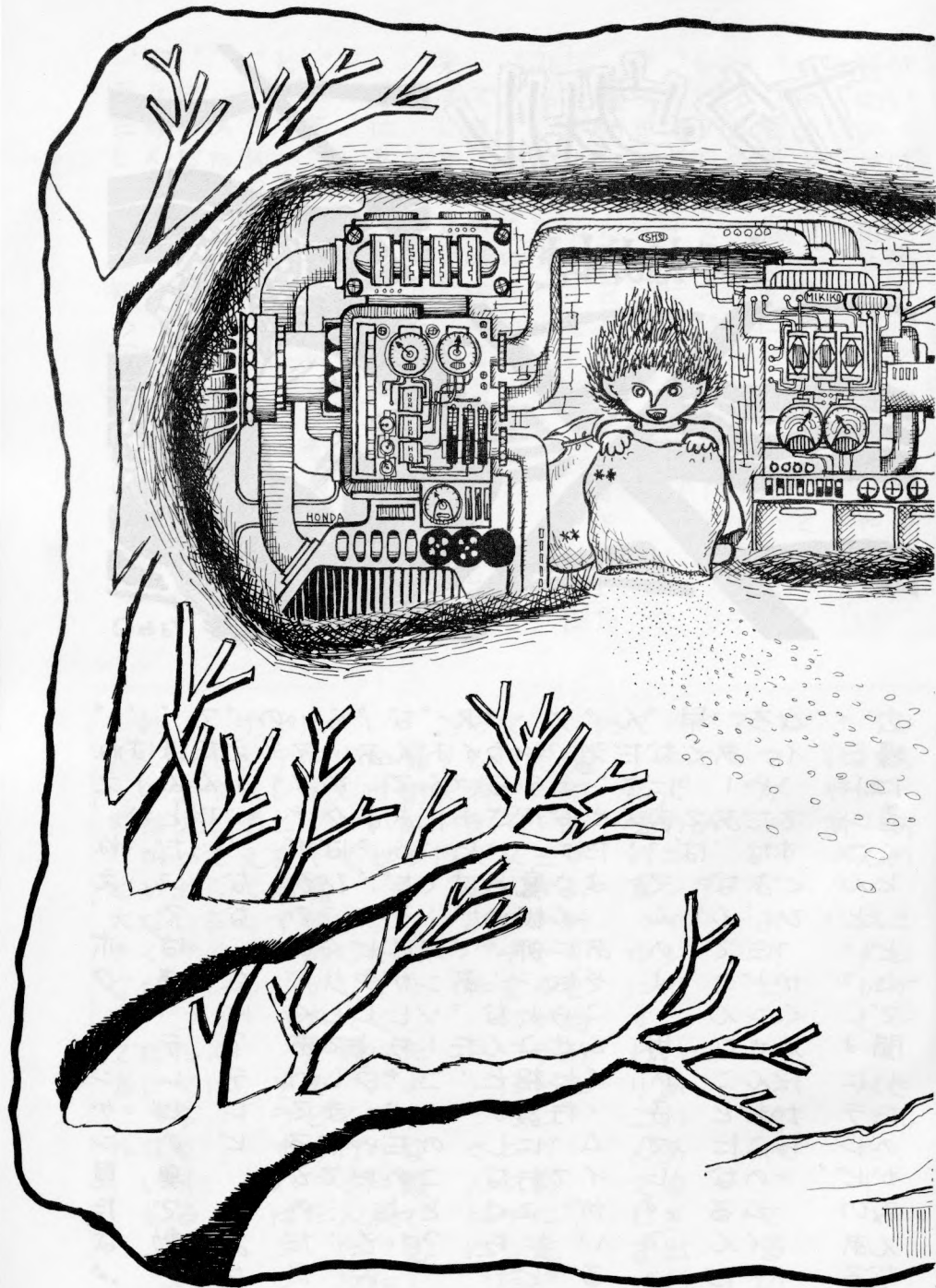
すたぜんきつねが
 据臆狐狩



三鬼島嶽



★Studio-Rio, 1980.10.19.~21.0P◎



冬の雪の精

最近では雪作りも機械
 化が進んであります*
 雪の精たち仕事も減
 ってほんとうに楽せ
 うなこと*
 でも ここまでやる
 ことはないよなあ。